

令和2年度（第59回）農林水産祭むらづくり部門受賞団体の概要

【農林水産大臣賞受賞団体（代表者）】

●一般社団法人宇治雑穀研究会〔岡山県高梁市宇治町〕（代表理事 のぶはら ひできよ 信原 秀清）

（1）むらづくりの背景・動機

宇治地区では農村型リゾート施設の運営、農村民泊などのほか、移住者受入サポート体制を整備し農業研修生等の移住者支援を行っている。

こうした活動の中心的メンバーが、耕作放棄地と生きがい対策の一助にと機能性の高さに注目を集めていたもち麦の栽培を開始した。移住者や若者、女性も参画し、平成24年、耕作放棄地解消と地域活性化を目的に6次産業化に取り組む宇治雑穀研究会を結成した。

（2）むらづくりの内容

① 生産面における取組状況

宇治雑穀研究会は岡山大学や県内醸造所の協力のもと、もち麦ビールを完成。メンバーの「高梁市初の地ビールの販売と地域活性化への活動の幅を広げたい。」という思いから協議を重ね、平成29年に「一般社団法人宇治雑穀研究会（以下「研究会」という。）」を設立した。

研究会は六次産業化法による総合化事業計画を作成し、平成30年に国から認定された。もち麦ビールや高校生と協働開発した菓子などのもち麦商品は市内外で販売して売上を伸ばし、市の特産品の一つとなっている。

こうした活動から研究会に農地を預ける農家が増え、もち麦の栽培面積は2.5haに増加し、耕作放棄地の解消につながっている。

② 生活改善の取組状況

研究会では小学校や高校等と連携した食育に積極的に取り組み、もち麦は地域の食材として学校給食に採用されている。

地区外の人を招き麦踏みイベントなどを開催していたが、女性メンバーから「地区外の人ともっと交流できる場所を作りたい。」と声上がり、旧農協店舗でカフェ「麦」を令和元年にオープンした。カフェではもち麦を使ったランチを提供するほか、地元農家の野菜や果物、加工品も販売し、地区内外から多くの人が訪れる交流・憩いの場として定着している。

研究会には、多世代の多様な人が参画し、地域をつなぐ活動を持続するために6次産業化という経済活動を実践している。